



アメリカ

メキシコ湾の低炭素ゾーン削減事業に排出量取引制度を活用

アメリカ環境保護庁（EPA）は、メキシコ湾北部の低炭素ゾーンを削減するため、最大420万ドルの補助金を交付する計画を公表しました。

低炭素ゾーンは、水生生物が生存できないほど酸素が減少した水域。メキシコ湾の場合は、オハイオ川、ミシシッピ川から流れ込む栄養分がその原因となっています。このため、EPAでは、特にこれらの流域から流れ込む窒素分を削減すべく、水質汚濁物質の排出量取引プログラムを活用する補助への申請を募集しました。

水質汚濁物質にキャップ・アンド・トレード制度を適用する市場ベースのアプローチは、低コストで汚濁物質を削減するのに役立ち、メキシコ湾の回復を早めることができるそうです。汚濁物質の削減目標を設定し、排出源が目標達成のために排出枠を売買することを容認することで、早く、安く、簡単に水質基準を達成できると期待されています。

EU

「変革者」のバーチャル・コミュニティを作ろう！

2006年5月からEUで始まった気候変動に関する市民の意識向上キャンペーンは、ハンガリー、ポーランド、チェコ、ルーマニア、ブルガリアの5カ国に焦点を合わせ、最終段階に入りました。世界環境デーに向けて、「気候変動はあなたの手に」キャンペーンの第3段階では、まだ国家規模でのキャンペーンが実施されていないこれら5カ国で、気候変動に関する積極的な対話を始めることを目指しました。

具体的には、日常生活の中で温室効果ガス排出削減に取り組む「変革者」のバーチャル・コミュニティを作ることを目的としたコンテストや、若年層向けのテレビ広告が中心です。コンテストでは、気候変動への取り組みを約束してもらい、行動している写真をインターネット上に掲示、新しいアイデアを共有し、成果を競いました。

ドイツ

2つの洋上風力エネルギー研究プロジェクトに300万ユーロ

ドイツ連邦環境省は、洋上風力エネルギーの拡大を目的にした2つの研究プロジェクトへの助成を認可したことを発表しました。

1つ目は、自然保護地域を保護するために、浮遊する洋上風力設備の基盤を開発するもので、ARCARDIS Consult社が開発。約280万ユーロを支援します。

2つ目は、天候に関係なく洋上風力設備への出入りを可能にするトランスファーステムの開発で、PTS社が開発するもの。約16万ユーロを支援します。ガブリエル環境大臣は、「洋上風力エネルギーは、再生可能エネルギー拡大の核。プロジェクトを通じて、洋上風力エネルギーの経済性も安全性も確保したい」とコメントを述べました。

イギリス

炭素計算機の利用者が100万人を突破

6月5日、世界環境デーのためバーミンガムでの環境気候変動フェスティバルに出席したイギリスのラドック大臣（気候変動担当）は、インターネットで提供している炭素計算機へのアクセスが100万件を突破したと発表しました。

炭素計算機は、2007年6月20日にスタートした試みで、家庭でのエネルギー消費、家電製品や交通機関の利用から排出されるCO₂の量を計算することができます。また、排出量削減のため、各自にあった行動計画を策定することもできます。

この日、ウーラス大臣（環境担当）は、ロンドンで行われたマイクロソフト社主催の「イマジン・カップ」授賞式に出席。若いプログラマーを奨励する同賞の今年のテーマは「持続可能な環境」でした。ウーラス大臣は「近い将来、低炭素経済国が最強の経済国となる」と述べました。

UNEP

変わりゆくアフリカの環境を衛星画像で紹介

南アフリカ・ヨハネスブルグで6月7～12日に開催されたアフリカ環境大臣会合（AMCEN）で、急激に変化するアフリカの環境を衛星画像等で示す地図集が、国連環境計画（UNEP）によって公表されました。

この地図集「アフリカ：変わりゆく環境アトラス」では、すべてのアフリカ諸国を対象に、100カ所を超える地点で撮影された300枚以上の衛星画像や写真で、環境が変化する「前」と「後」を紹介。縮小するキリマンジャロの氷河、乾燥するチャド湖などよく知られている画像の他にも、コンゴやマダガスカルでの森林破壊、ダカル（セネガルの首都）が急激に拡大する様子など、これまであまり知られていない画像が盛り込まれています。

また、環境が悪化している状況だけでなく、環境が改善している様子も紹介。チュニジアの国立公園で過剰放牧対策を講じ、自然生態系が回復してきている様子、ケニアで森林の過剰伐採が減少してきている様子などを見ることができます。

編集協力：財団法人環境情報普及センター（EIC）
各ニュースの詳細は、「EICネット」の「海外ニュース」のホームページをご覧ください。アドレスは、<http://www.eic.or.jp>です。